

鈴鹿工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	国語ⅠA
科目基礎情報						
科目番号	0073		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	生物応用化学科		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	教科書：坪内稔典・他 編，「改訂版 高等学校国語総合」（数研出版）参考書：「改訂版 高等学校国語総合 準拠ワーク」（数研出版），「五訂版 漢字とことば 常用漢字アルファ」（桐原書店），本校指定の電子辞書。					
担当教員	久留原 昌宏					
到達目標						
評論，小説，詩歌などの様々な日本語の文章を学習することにより，日本語への理解力・表現力を高めるとともに，文学のもつ素晴らしさや，文学を学ぶ意義について理解することができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	評論・小説・詩歌などの現代の応用的な文章について理解することができる。		評論・小説・詩歌などの現代の基本的な文章について理解することができる。		評論・小説・詩歌などの現代の基本的な文章について理解することができない。	
評価項目2	語彙・文章などの応用的な表現能力を身につけることができる。		語彙・文章などの基本的な表現能力を身につけることができる。		語彙・文章などの基本的な表現能力を身につけることができない。	
評価項目3	文学の持つ素晴らしさや学ぶ意義について十分に理解することができる。		文学の持つ素晴らしさや学ぶ意義について理解することができる。		文学の持つ素晴らしさや学ぶ意義について理解することができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	本科目は，高等専門学校の国語の基礎能力を「現代文・表現」の分野を中心に身につけさせる。具体的には，第1学年の学生として中学校までの学習の復習を含めながら，高専生，そして現代に生きる日本人として必要な近代，現代文学の基礎知識の獲得と，読解力の向上，及び的確な表現能力を養うことを目標にする。					
授業の進め方・方法	・すべての内容は学習・教育到達目標(A)の〈視野〉および(C)の〈発表〉に対応する。 ・授業は講義・演習形式で行う。講義中は集中して聴講する。 ・「授業計画」における各週の「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする。					
注意点	<到達目標の評価方法と基準> 下記授業計画の「到達目標」を網羅した問題を，2回の中間試験・2回の定期試験と小テスト・提出課題・口頭発表等で出題し，目標の達成度を評価する。各到達目標に関する重みは概ね均等とする。合計点の60%の得点で，目標の達成を確認できるレベルの試験を課す。 <学業成績の評価方法および評価基準>前期中間・前期末・後期中間・学年末の4回の試験の平均点を60%，小テストの結果と漢字検定への取り組みを20%，課題・ノート提出を20%として評価する。ただし，前期中間・前期末・後期中間・学年末試験ともに再試験を行わない。 <単位修得要件>与えられた課題レポート等をすべて提出し，前期中間・前期末・後期中間・学年末の4回の試験，課題，小テストにより，学業成績で60点以上を取得すること。 <あらかじめ要求される基礎知識の範囲> 中学校卒業程度の国語の知識および能力を身につけていることが必要である。 <レポート等> 理解を助けるために，随時演習課題を与え，提出させる。また夏期休業中の宿題として，外部コンクールに応募する。 <備考>授業中は学習に集中し，内容に対して積極的に取り組むこと。疑問が生じたら直ちに質問すること。また，課題は期限厳守で提出すること。なお，本教科は後に学習する国語Ⅱ，日本文学，言語表現Ⅰ・Ⅱ，文学概論Ⅰ・Ⅱの基礎になる科目である。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	本授業の概容および学習内容の説明		1. 本授業の概要と学習内容を理解している。	
		2週	随想 わたしであり、あなたでなくちゃ（川上未映子）①	2. 作者の人物背景や作風について理解している。 3. 作者の表現意図を理解し論理の展開を把握することができる。 4. 自分の考えや意見をまとめることができる。		
		3週	随想 わたしであり、あなたでなくちゃ（川上未映子）②	上記2～4に同じ。		
		4週	小説 清兵衛と瓢箪（志賀直哉）①	5. あらすじを把握し，登場人物の心情・行動を理解している。 6. 作品・作者に関する文学史的知識を身につけ，それぞれの作品が書かれた時代背景について理解している。 7. 日本文学を学ぶ意義を理解している。 8. 読解後自分なりの感想を文章にまとめることができる。		
		5週	小説 清兵衛と瓢箪（志賀直哉）②	上記5～8に同じ。		
		6週	小説 清兵衛と瓢箪（志賀直哉）③	上記5～8に同じ。		
		7週	小説 清兵衛と瓢箪（志賀直哉）④	上記5～8に同じ。		
		8週	前期中間試験	上記1～8の内容を理解している。		
	2ndQ	9週	前期中間試験の反省 詩 サーカス（中原中也）①	9. 前期中間試験の内容を理解している。 10. 詩歌の作者の意図を理解し，表現技巧を把握することができる。 11. 文学史的知識を身につけ，詩歌作品が書かれた時代背景を理解している。 12. 詩歌の鑑賞能力を養い，自分の感想を文章にまとめることができる。		
		10週	詩 サーカス（中原中也）②	上記10～12に同じ。		

後期		11週	評論 ネットが崩す公私の境（黒崎政男）①	上記3, 4に同じ。 13. 各段落, および全体の要旨をまとめることができる。
		12週	評論 ネットが崩す公私の境（黒崎政男）②	上記3, 4, 13に同じ。
		13週	評論 ネットが崩す公私の境（黒崎政男）③	上記3, 4, 13に同じ。
		14週	評論 ネットが崩す公私の境（黒崎政男）④	上記3, 4, 13に同じ。
		15週	表現 エッセイを書く	14. 課題によるエッセイを完成させることができる。
		16週		
	3rdQ	1週	前期末試験の反省 俳句①	15. 前期末試験の内容を理解している。 上記10～12に同じ。
		2週	俳句②	上記10～12に同じ。
		3週	俳句の創作	16. 俳句を創作することにより, 自らの心情を作品として表現することができる。
		4週	評論 ものとなことば（鈴木孝夫）①	上記3, 4, 13に同じ。
		5週	評論 ものとなことば（鈴木孝夫）②	上記3, 4, 13に同じ。
		6週	評論 ものとなことば（鈴木孝夫）③	上記3, 4, 13に同じ。
		7週	評論 ものとなことば（鈴木孝夫）④	上記3, 4, 13に同じ。
		8週	後期中間試験	上記3, 4, 10～13の内容を理解している。
	4thQ	9週	後期中間試験の反省 表現 手紙を書く	17. 後期中間試験の内容を理解している。 18. 手紙の形式を踏まえて, 自らの心情を表現することができる。
		10週	小説 羅生門（芥川龍之介）①	上記5～8に同じ。
		11週	小説 羅生門（芥川龍之介）②	上記5～8に同じ。
		12週	小説 羅生門（芥川龍之介）③	上記5～8に同じ。
		13週	小説 羅生門（芥川龍之介）④	上記5～8に同じ。
		14週	小説 羅生門（芥川龍之介）⑤	上記5～8に同じ。
		15週	小説 羅生門（芥川龍之介）⑥ 年間授業のまとめ	上記5～8に同じ。 19. 年間授業内容の意義について説明できる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章を読み、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し、要約し、意見を表すことができる。また、論理的な文章の代表的構成法を理解できる。	1	
				代表的な文学作品を読み、人物・情景・心情の描写ならびに描写意図などを理解して味わうとともに、その効果について説明できる。	1	
				文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。	1	
				文学作品について、鑑賞の方法を理解できる。また、代表的な文学作品について、日本文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。	1	
				鑑賞にもとづく批評的な文章の執筆や文学的な文章（詩歌、小説など）の創作をととして、感受性を培うことができる。	1	
				読書習慣の形成をととして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができる。	1	
				現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用語、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を深め、その特徴を把握できる。また、それらの知識を適切に活用して表現できる。	1	
				情報の収集や発想・選択・構成の方法を理解し、論理構成や口頭によるものを含む表現方法を工夫して、科学技術等に関する自らの意見や考えを効果的に伝えることができる。また、信頼性を重視して情報を分析し、図表等を適切に活用・加工してコミュニケーションに生かすことができる。	1	
				他者の口頭によるものを含む表現について、客観的に評価するとともに建設的に助言し、多角的な理解力、柔軟な発想・思考力の涵養に努めるとともに、自己の表現の向上に資することができる。	1	
				相手の意見を理解して要約し、他者の視点を尊重しつつ、建設的かつ論理的に自らの考えを構築し、合意形成にむけて口頭によるコミュニケーションをとることができる。また、自らのコミュニケーションスキルを改善する方法を習得できる。	1	
				社会で使用される言葉を始め広く日本語を習得し、その意味や用法を理解できる。また、それらを適切に用い、社会的コミュニケーションとして実践できる。	1	

評価割合

	試験	課題・ノート提出	小テスト・漢検	合計
総合評価割合	60	20	20	100
配点	60	20	20	100